



まつした たくま
松下拓真

生年月 1982年7月長野県生まれ
最終学歴 2008年名古屋工業大学
大学院産業戦略工学修士
課程修了

業務経歴 2008年(株)東畑建築事務所
入社 現在、名古屋オフィ
ス設計室主任技師

●担当した主なプロジェクト

- 2009年 特別養護老人ホーム
桜英水苑
- 2009年 鈴鹿農業協同組合別館
- 2010年 堺市浅香山病院
- 2011年 三重大学医学部附属病院外
来診療棟
- 2011年 近藤紡績浜松飲食店
- 2012年 JA鈴鹿庄内支店
- 2013年 大台町メディカルセンター
- 2014年 瀬戸みどりのまち病院
- 2015年 三重大学医学部附属病院基
幹環境整備
- 2016年 上村工業名古屋支店
- 2017年 医療法人和光会 川島病院

■青年技術者のことば

現代社会は、物や情報が溢れ、人の欲望は満たされましたが、人生の豊かさとは反比例しているように感じます。経済優先の私利私欲の追求からは人々の営みを優先したものは生まれにくく、設計者は人々の営みについて考えることが職務と考えます。何も無いが安寧を委ねられる環境は、人や自然、地域と安心して繋がることができ、人生の豊かさを感じるのだと思います。

建築はそのような環境を提供することが一つの使命だと考えています。顧客要望、周辺環境や文化などの様々なコンテクストを読み解き、人や自然、地域とノイズ無く素直に繋がる空間を構築することが重要だと考えます。

病院において人生の豊かさを感じる設計とは何なのか。病院の主たる利用者はスタッフ、患者さん、地域の方々です。私はその中で声が聞こえないエンドユーザーの患者さん、見舞客や地域の人の視点に立ち、設計を行うよう意識しています。患者さんや家族の心理を考えると変に自己主張的で、見栄え優先の建築では無く、彼らの心に寄り添い、安心できる優しい空間が人生の豊かさを感じる“患者さん本位の病院”だと思います。

患者さん本位の病院であり、機能的な治療空間という両義的な空間を成立させることが病院設計の醍醐味であり、今後も真摯な姿勢で心の豊かさを持った技術者となれるよう設計と向き合い続けたいと思います。

■すいせん者

瓦田伸幸
(株)東畑建築事務所
常務執行役員 名古屋オフィス代表

瀬戸みどりのまち病院

瀬戸市の医療連携における慢性期医療・在宅医療等を支える177床の療養型病院の移転プロジェクト。

敷地には南北縦断面に5mの高低差があり、それを利用してサービスや職員部門を2階に上げ、外来やリハビリ、デイケアなど1階で患者さんに纏わる部門を配置し、患者さんに優しく判りやすい病院を実現した。

「患者さん本位の病院づくり」を目指し、光庭やオープンエンドによる採光・通風・眺望を確保し、ベッドのまま出られるテラス、家族で過ごせる家族室を設けた。また、内装には暖かみを持たせ、親しみある瀬戸本業釜タイルを用いるなど、患者さんや家族が快適に療養できる病院を目指した。

安心して暮らし続けられる地域医療に貢献することを期待している。



三重大学医学部附属病院
外来診療棟・外構整備

3次救急、高度専門医療、災害時拠点病院と、地域医療連携をリードする立場の大学病院である。

超急性期医療を支える機能空間と、心の癒しを提供できる病院環境を構築することを目指した。建物中央部分の吹抜のあるメインストリートには、各診療部門のほか、カフェなどのアメニティが面し、わかりやすく気持の良い連続した空間構成とした。外構は、“患者さんを優しく迎え、大学病院の顔となるアプローチ空間”を基本コンセプトに、軸線となる歩行者専用アプローチを中心軸とし、シンボリックなテント幕の車寄せ庇を配して、超急性期病院の顔に相応しいアプローチ空間を計画した。

